

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100372		
法人名	医療法人 智仁会		
事業所名	グループホーム 福寿荘		
所在地	佐賀県 佐賀市 西与賀町 大字厘外1236-7		
自己評価作成日	平成31年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年2月20日	外部評価確定日	平成31年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりが自立した生活ができるよう、また「そのひとらしく」過ごして頂けるようにプライバシーに配慮し、家事を中心とした自立支援を行っている。建物が住宅地にあり、人通りは少ないが通学路なので、近所の方や子供たちが建物の前を通るときや利用者との散歩時は挨拶や声かけを行い、社会との接点を感じられるよう努力している。玄関先は、草花を植え季節感を感じて頂けるようにしている。入居者さんは、高齢化や認知症の進行により年々身体機能は低下しているが、極力屋外に出られるよう外出支援に取り組んでいる。地域の催しや同法人で行われるクリスマス会や習いごと教室等に参加し交流を図っている。また外部より慰問していただく機会も設けている。</p> <p>食事は、生活の中での大きな楽しみの一つなので、利用者の好みを反映させ、好きなものを取り入れている。また季節を感じられる食材を使いメニューを考え、炊事への参加も積極的に行っている。毎年敬老会では家族との交流の機会をもっており、また本人と家族の繋がりを維持するべく、法事などへの参加も働きかけている。地域包括支援センターや医師とも連携を密にしながら、本人のみでなく家族を支える支援にも取り組んでいる。日頃から家族には、利用者の健康状態や生活状況を伝え、家族と共に利用者を支援できるよう心掛けている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の傍を通過していた人が「楽しそうな声が出て、笑い声につられて立ち寄った」と声を掛けてくれた出来事は、職員にとって何よりの喜びであり励みとなっている。理念に掲げた「認知症のある人は私たちの鏡である。ケアをする人の姿勢が相手に伝わる」が実践され、利用者の意思を尊重したケアが行われていることが窺える。急かすことなく見守る食事風景や、自然にリビングに集まっている姿からも想像できる。また、家族から忌憚のない意見を汲み取れるよう、年2回、法人主導で傘下の事業所全てを対象にアンケートが実施されている。その結果は事業所毎に公表され、当グループホームへの意見や質問に対しては全家族に返している。更に、法人の施設を活用した楽しみ事があるのも特長のひとつである。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の個性や以前の生活を大切に、施設では先輩として尊敬の念を持ち、「その人らしく」生活できるよう支援することを理念に掲げている。職員は理念のカードを常に携帯し、一人ひとりの利用者の立場に立ち支援するよう努めている。利用者との関係は「合せ鏡」であることを常に意識して行動している。利用者の加齢により介助量は年々増加しているが、理念の共有と実践はよりつながってきている。	4年程前に現在の法人が経営を引き継いだ時、旧理念に当時の職員の想いも加えた新理念が生まれている。玄関や事務室など目につきやすい場所への掲示や、職員の名前ホルダーに理念を入れておく事で意識付けを図っている。認知症を理解し、自分の親であればと想像することで利用者寄り添ったケアを実践している。そこには理念が活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(集い)に参加し交流を図っている。運営推進委員の自治会長や民生委員・回覧板にて、地域の年間行事や防災に関する情報提供をいただいている。地域の文化祭にも作品を出展・校区の防災訓練に参加。駐車場が狭く、時々隣の方の駐車場をお借りしたり、散歩の途中ではご近所の方と挨拶を交わしており、季節ごとの野菜や果実をいただくこともある。更に困りごとや急な体調不良などの相談や、施設内の見学にも応じている。	自治会に加入しており回覧板も届いている。運営推進会議の折や、すぐ近くに住む職員もいて地域の細かい情報も得られている。近隣住民とは挨拶を交わし、困り事には手を貸すこともある。事業所脇にあるゴミ収集場所は日頃から積極的な掃除も行っている。また、市高齢者見守りネットワーク事業の協力事業所でもあり、専門知識を活かした地域貢献も視野に入っている。今後も地域との繋がりを大切にしながら、非常時などには協力を頼める関係であるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のみならず介護全般の相談にのる体制は整えていて、相談・見学には対応している。ボランティア・職場体験・実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の健康状態や活動の報告を行っている。また地域包括支援センターからの最新の情報も頂き、サービス向上に活かすよう努めている。2ヶ月に1回開催しており、意見は口頭や回覧を通し職員全員に伝達・共有し、サービス向上に活かす努力をしている。	約一時間の会議である。行政側は代理でも出席者を出し、メンバーには地域役職者の他、後見人を務める方(司法書士)の参加もある。毎月のホーム便りで開催を知らせ家族の参加を募ってもいる。事業所の報告のみではなく双方向な意見交換の場であり、回覧板を利用した情報発信など(避難訓練への参加協力等も含め)提案されている。メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もみられ、自己評価ではこの会議を通しての繋がりは少しずつ増えているとも答えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の福祉担当者や地域包括支援センターと連絡を取り合う体制は整えている。利用者では成年後見人制度を利用されている方がいる。運営推進会議に参加してもらい協力関係を築いている。	行政側の担当者とは運営推進会議や地区の行事、また外部での研修時にも顔を合わせる機会はある日頃から顔馴染みである。問い合わせや相談事にはまず電話を掛け、内容によっては直接出向く事もある。実直に対応してもらえる関係は築いている。また、介護相談員も不定期で訪れており、利用者との橋渡し役として想いを伝えてもらえるよう期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束内容は全職員が理解している。身体拘束ゼロを実施。日中玄関は施錠していない。利用者の状態により、施錠する場合がある。身体拘束に関わる指針は廊下の目に付きやすいところに掲示している。また身体拘束についての研修にも参加・共有しながら、日頃の行動・言動を振り返る機会としている。	入居契約時には指針の説明をしており、全ての職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。法人内外での研修に参加し、受講した職員は持ち帰って伝達講習の役割りもある。日中の玄関に施錠はなく、チャイムは鳴るものの来訪者への対応が殆どである。職員の見守り等で安全で自由な暮らしが支援され、行動を抑えることもない。仮に不適切な場面があれば臨機応変な指導と、全体の事として問題提起をすることになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し情報を共有・随時話し合うことで職員一人ひとりの虐待に対する認識の確認をしている。職員同士で言葉遣い等も含め注意しあう努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用されている方がおられる。運営推進委員でもあり、ご意見をいただき共有している。権利擁護に関する制度についてはまだ学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分に説明を行っている。質問に対しては理解していただけるまで話合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、利用者との会話から意見要望を聞いている。家族からは面会時に話を聞き、申し送りやGH会議で職員全員に意見や要望を伝えている。外部に対しては、運営推進会議等で意見を伝えている。家族は毎年代表者1名に参加してもらっている。(ご意見・苦情BOXを設置している。)	家族の来所は様々である。来所を期待し、毎月の利用料支払いに敢えて現金払いが選択できるようにもしている。請求書送付時にはホーム便りや近況も添えているが、なかなか来られない家族へは電話も掛けている。また、直接会話が出来る機会は大切にしており、世間話等も交えながら何でも話してもらえるよう努めている。職員の言葉使いに対する意見が寄せられた際には真摯に耳を傾け対応している。訪れる家族にも高齢化がみられるようになり、健康面などへ配慮した声掛けも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のGH会議では勿論のこと、日々気づき等あるときは、その都度意見を聞いている。必要に応じ代表者(法人)に職員の意見を伝え、人材確保や業務の改善・運営に反映している。	毎月の職員会議は宿直明けも参加できる午前中に約一時間、休みの人は除き開いている。主にカンファレンスと日頃の気付き等を細かく、利用者毎に話し合っている。些細な事でも自由に発言しやすい職場環境であり、記録簿に記すペンの色を見直して改善した例もある。また、限られた時間をスムーズに進める工夫としてレジュメはもとより、取り上げてほしい案件などを記しておくノートもある。時には内容の事前周知も行い、各々が考えをまとめておくのに役立っている。管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、現場の声を法人に届けたり、職員とのコミュニケーションやストレスの解消に役立つ事は何か等々、常に気に掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度あり、整備・活用している。勤務表作成前には職員に希望休を出してもらうことで調整を行い、ワークライフバランスを考慮し、働きやすいよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する施設外研修や職員に必要と思われる施設外研修に参加させている。研修内容については、GH会議と報告書で報告の場を持ち全職員で研修内容を共有している。施設内でも研修を行い、職員全体のレベルアップに努めている。管理者は必要によりアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にも積極的に職員を参加出来る様にし他施設職員等と交流・情報交換を行うよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話や訴えはもとより表情やしぐさから気持ちを察するよう努力し、傾聴と共感する姿勢で関係づくりに努めている。他施設入所中の場合は、当事業所から出向き、本人の生活状況や、精神状態を細かく探り、関係づくりに活かす努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞き、困っていることや不安なこと、要望などを聞き取るようにしている。ケアマネ・家族より情報を収集し、些細なことでも話していただけるような態度で接し、安心して頂けるよう心がけている。また入所後も常に入居者・家族からの意見に傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	より良いサービスの利用が出来るよう対応している。福祉用具や医療連携の説明など、また他のサービス利用の方が適当と思われる場合は、その紹介も行っている。最終的に本人と家族が納得して利用して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過し、残存機能をいかし出来ることは、自分でして頂くよう努めている。利用者から「生活の知恵」を学ぶ機会も多く、お互いに助け合い生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「お便り」の他、こまめに連絡を行い、現状を伝えることで認知症の進行や体調を理解して頂き、家族と共に支えていく関係を作る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	祝い事・法事や墓参りには、出来るだけ参加して頂く様家族に働きかけ、親戚やご近所の方と会える機会を作ってもらっている。馴染みの場所に立ち寄り頂きご近所の方との触れ合う機会を作ってもらっている。職員は情報を収集し、それをもとに会話したり、ドライブ等の外出時は、自宅近くや町内の様子を見て頂いている。	入居までの人間関係等の把握には本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していた施設、病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援を行っている。自己評価に記された事他に、電話の取次ぎや年賀状、暑中見舞い状を書いてもらう事、また家族の協力を得ながら盆正月の帰宅もある。家族と共に馴染みの美容院へ通う利用者もいる。入居後もこれまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者同士の関係を把握し、状況を共有しながら支えあっている。一人で孤立しないよう、会話ができるよう場所をセッティングしたり、難聴や視力が弱い方には職員が話の仲介に入り、説明を行い利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行くように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の支援体制は整えている。入院の場合は、面会に行く機会を作っている。職員も家族と入院先や買い物等で会った場合は、挨拶を交わし情報交換し家族の労をねぎらう姿勢で接している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関りの中で利用者の思いに傾聴するようにしている。家族からの情報や直接利用者に希望を尋ねることも多いが、困難な場合は、利用者本人の日常の言動や行動から意向を察し、毎日の送りや毎月のGH会議で職員の認識の共通化に努めている。可能なことは直ぐに実践している。	利用者から思いが聞けるのは一対一で接している時に多い。中でも入浴中の寛いだひとときや、隣りで話し相手をしている時などである。発語の少ない利用者とは、視線を合わせながらまず挨拶をし、方言を交えた会話などから単語のみでも意思疎通を可能にしている。また、利用者によっては話すフレーズによって状態を推し測る事もあり、日々の傾聴と職員間の連携が功を奏している。聞き取った事は申し送りノートや職員会議等で共有され、ケアプランに反映させるきっかけとなった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報だけでなく、入居後の会話の中からこれまでの暮らしの把握を行っている。知り得た情報は、随時、生活暦として記載し、職員全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動・行動に注目し、日々の変化を情報を共有できるよう個人記録に出来るだけ詳しく一日の過ごし方を記載している。業務日誌や口頭での申送りを行い、全職員が現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者から、直接意見を聞いたり、日々の会話から意向を汲み取っている。家族とは、面会時や電話等で日頃から十分なコミュニケーションに努め、意向を確認している。必要時、医療関係者と連携している。本人らしい介護計画を立てられるよう情報共有している。	見直しの設定期間は、入居して間もない時期は一月毎に行い、その後、3か月毎、6か月毎と延びている。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。利用者の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族の要望で多いのは現状の維持である。身体機能も徐々に低下していく事が否めない中、それぞれに合ったプランを練り説明している。利用者毎に担当職員がおり、3か月毎のモニタリングではその職員を中心にケアマネジャーがまとめている。事業所の方針として、夜勤者の意見を複数参考に行っている点も特長である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全職員での記録とし、共有しながら実践している。ケアカンファレンスも定期的に行い常に見直しを行い、次回につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向や要望は個別対応とし出来る限り受け入れ支援に努めている。緊急の医療受診や入院時は可能な限りホームで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・実習生の受け入れに協力している。近隣住民、駐在所、民生委員、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとも連携し情報を得ながら、安全・安心した生活が出来るよう支援している。地域の行事への参加等積極的に出掛ける努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人と家族の意向を聞き主治医を確認している。入居後も本人の身体および精神状態に合せ、医療機関を紹介したり主治医の変更を行うなど、適切な医療が受けられるよう支援している。また緊急時の対応についても主治医や家族と相談している。実際家族が付添えない場合は職員が付添っている。訪問診療により、定期的な健康管理が行えている。	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿っている。入居前からの馴染みの医師の元へ通う方や、入居後に協力医への変更を希望した方、また元々協力医の患者だった方など様々である。協力医は毎週一回、往診に訪れており、その都度、体調を診てもらえる。往診の状況は細かく記録されているため変化にも気付きやすく、その対応も早い。また管理者が看護師資格を有することも緊急時には心強い。他科受診が必要な際にはまず家族の希望等を尋ねている。受診に家族が付添う場合、日頃の様子は口頭またはメモを渡し、医師へ伝わるよう配慮している。職員が付添う場合の結果報告は緊急時のみ当日中としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で利用者の小さな変化や気づきは直ぐに看護師へ報告し相談している。また各利用者の主治医や協力医療機関の医師、看護師等に報告・連絡・相談しながら、日常の健康管理に努めている。指示変更時は、速やかに周知されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、家族に了解を得て診察等に同席させていただき、担当医から説明を受けている。医療機関にも情報提供を行っている。定期的に訪問し情報収集等も行っている。家族とも密接に連絡を取っている。(家族対応が困難な場合は当施設が支援している)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族には重度化した場合どうしたいか意見を伺っている。必要により協力医療機関の医師を交え方針を確認している。入居時には、本事業所で出来る対応についての説明を十分に行っている。状態の変化に応じてその都度話し合いを持ち、家族の意向の確認を行っている。	これまでに看取りの経験はない。「重度化した場合の対応に係る指針」には、希望があれば応えていく旨が記されている。入居契約時にその説明を行い、家族の意向書も用意されている。まだ考えられない家族には急かすことなく、時期が来たら再度話し合う事としている。既に意向書を書いているが、容態の変化に伴い気持ちは揺れ動くことを踏まえ、何度でも話し合いを重ねる事としている。職員は法人内の研修も受けているが、ターミナル開始となれば改めて勉強会等でフォローされる。安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網・急変時研修に参加している。事業所にはAEDの設置と急変時対応マニュアルがある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練を実施、消防署立会で指導を受けている。事前に地域の方に、周知と協力をお願いしている。運営推進会議にて訓練の予定や実施状況、反省点を報告している。また地震や風水害時は防災マップ等で避難先を常に確認している。地区の防災訓練にも参加。	年2回の訓練は昼間帯に行い、夜間は想定のみである。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。避難先は法人施設となっており、家族へも周知されている。また、自然災害時の避難では近くの公的避難所も対象であり、同地区にいる家族からは協力の申し出もある。居室入り口を塞ぐような家具の配置はなく、非常食や水の備えもある。前回の外部評価では職員のみでの避難誘導の限界が指摘されており、その後の訓練では地域役職者の参加協力を得ている。しかしながら未だ検討中の課題もあり、今後速やかな見直しと改善が望まれる。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分気配りをしたケアに努めている。名前の呼び方も本人の意思を尊重し、どう呼んで欲しいか聞いている。職員同士、言葉遣いに注意合せて介護を行うよう努力している。	トイレや入浴の介助では特に配慮が必要とされる。入居して間もない頃は同性によるケアを心掛け、その後も利用者毎の想いに沿っている。接遇の研修もある。介助の際にはドアを閉める、見え難い立ち位置でのケア等々、基本的なことをきちんと守っている。また、個人情報の取扱いに対する職員の意識は高く、業務上の会話であっても声の大きさにも注意を払っている。ホーム便り等への写真や名前の掲載、居室の名札に至るまで入居時には承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い・希望に添え自己決定を促し意志を確認している。利用者の話しやすい環境。日課や家事への参加、外出などは本人の気持ち尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、好きなように好きなところで過ごしていただいている。基本的な生活の流れの声かけを行い、生活リズムが保てるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の衣服は、本人の意向を伺い選択してもらっている。混乱される利用者については、職員が付添ったり選んだりして、適切な選択が出来るよう支援している。また訪問理美容があり、本人の希望の髪型を技術者に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好を知り、日々の体調や食欲を把握しながら食事の支援を行っている。その日のメニューは利用者の意見を取入れつつバランスを考慮している。調理も野菜のカットや盛り付け、配膳や食器の洗浄など一緒にを行い、自立支援に努めている。 利用者には、副菜の混合わせや盛り付けを一緒に行っており、食後の後片付け(テーブル拭きや食器洗浄など)を一緒にやっている。	献立は、その日の当番職員が利用者に食べたい物を尋ねたり、冷蔵庫の中身を見て考えており、家庭と同じである。好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えも用意されるが、好き嫌いに関しては克服されるケースも多い。手伝いをされる利用者もあるが、歳を重ねる毎に難しくなっているのが現状である。食の細かい方には高カロリードリンクも常備している。自分で口へ運んでもらう事の大切さから介助は最小限に止め、声掛け等で促す場面もみられる。職員も同じテーブルでお弁当を広げ、ゆっくりと急かさず和やかな食事風景である。また、誕生日祝いは楽しみなイベントであり、ケーキが用意され、訪れる家族もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取時・量の観察。必要時、ST・OT・栄養士へ相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1回/年の歯科検診においてアドバイスを頂いている。毎食後、口腔ケアを促し見守りと自立支援に努めている。また寝る前に義歯洗浄を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握している。一人ひとりにあった下着や紙パンツ、パット類を使用している。尿意の曖昧な方へは表情や動作を汲取り意思確認している。	パターンの把握でタイミングなどを押し測り、適切な誘導で支援している。各居室にトイレが設置されており、日中は共用に限らず自室へ戻る利用者もある。職員はさり気なく見守り、羞恥心にも配慮したケアを行っている。夜間もポータブルではなく各々のトイレ使用である。また、尿回数が減り安眠できるようになった利用者もある。パット類の選択では吸水性の高い製品を選ぶことで使用枚数が減り、結果的に費用負担の軽減へと繋がっている。便座回りでは両脇の手摺りが自立を促す補助具であり、毎回の動作は生活リハビリにもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて把握。身体を動かすよう毎日体操や歩行訓練・散歩を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は、週3回としているが、ご本人の希望や状態により変更している。身体介護に拒否がある方には、時間を変更したり翌日に変更したりと柔軟に対応している。また、状況に応じて必要時入浴・シャワーできるように努めている。	入浴は週3回を目途にしているが、風呂の準備は毎日できているため希望があれば対応も可能である。嫌がられる方もあるが、職員のテクニックやタイミングをずらすなど工夫している。ひとりずつ入浴を楽しんでもらい、寛いだ中で想いが聞けることもある。入浴しない日でも肌着下着の交換は毎日行い清潔保持に努めている。浴室では浴槽が中央にあることで両側からの介助がしやすい設計である。シャワーチェア等も活用しながら安全な入浴が支援されている。冬場のヒートショック対策では浴室まで暖められ、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守りの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファでいつでも休息出来る様に室温・湿度の調整を行い、環境づくりに努めている。不穏状態などで不眠な利用者については、申し送りを行い日中の過ごし方を調整するなどの支援している。眠剤を服用されている利用者については、服用後タイミングを図って就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認できている。看護師によるチェック対応あり。お薬説明書の活用している。看護師(管理者)への相談対応している。与薬時は、利用者の能力に合わせ介助し、内服されるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向を基に、嗜好や生活習慣を考慮して家事・レクリエーションに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、戸外に出られるよう支援している。天気や気候に応じて散歩を実施、季節毎のドライブや花見を行っている。イベントにも参加し地域の方とも交流している。家族のイベントへの参加・協力にも支援している。	本人の口から外出の希望が聞かれることは少なくなったが、話題を振れば興味は示してくれる。天候や体調をみながら周辺への散歩は日常的に行い、受診の帰り道で遠回りをすることもある。年間行事にあるドライブ等では家族が現地で合流することもある。法人の車椅子対応車両を借りることで一緒に出掛けることも可能となっている。殆ど外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理出来る金額を家族と合意の上で所持してもらっている。買い物希望される場合は、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度対応している。暑中見舞いや年賀状作成の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は手すりがついており、幅も広い。照明にも気をつけ天気が悪い日は暗くならないよう調節している。季節ごとに作成した利用者の作品を廊下の壁に貼る事で、季節感を楽しみながら、往来出来るように工夫している。玄関の貼り絵も利用者と共に作り、季節感を出している。祝日にはリビングに国旗を掲揚している。リビングにはソファがありくつろいでいただいている。居心地良い環境作りに努めている。	食事と寛ぎの場であるリビングは広く明るい。天井は梁を見せる設えで、置かれた家具の色調からも落ち着いた雰囲気である。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。自由に上下するテーブルやソファが新調され、過ごしやすいレイアウトを考え中でもある。衛生面への配慮では、毎月の専門業者による害虫防除があり、手を触れる箇所の消毒は職員が年間を通してこまめに行っている。換気にも注意を払い、サッシ戸を開けて行うのは居室も同じである。国道から少し入った場所だが車の騒音は殆ど気にならない。夏の強い日差しにはロール式の日除けで対応している。トイレや浴室などもきれいに掃除され不快な臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファもあり、ゆったりと話が出来るようにしている。状況により、声掛け・誘導により対応している。好きな場所に思いおもいに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みのタンス・棚・テレビ等持込んでもらい、本人・家族の好みに配置していただいている。入居後も必要なものは随時持込んでもらっている。室内の壁にはご家族の写真やペットの写真、レクリエーションで作成した作品などを飾っている。	ベッドとソファが用意されており、火気等の危険物以外に持ち込む品物への制限もしていない。馴染みの物を置き、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。各居室にはクローゼットがあり、収納が出来ることで室内もすっきり片付いている。トイレの他に洗面台も設置されているが、敢えて足元の扉を外し、車椅子でも使いやすい部屋もある。天気の良い日には布団も干され、家庭と同じように手間も惜しまない。家族が希望すれば居室への宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープ・手すりを設置。玄関にはチャイムにて直ぐに対応できるようにしている。トイレの場所や電気のスイッチなどに表示を工夫している。リスクの高い方にはセンサーを設置し対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない